

横浜市立梅林小学校

平成29年度 学力向上アクションプラン

1. 学校の状況と地域の実態

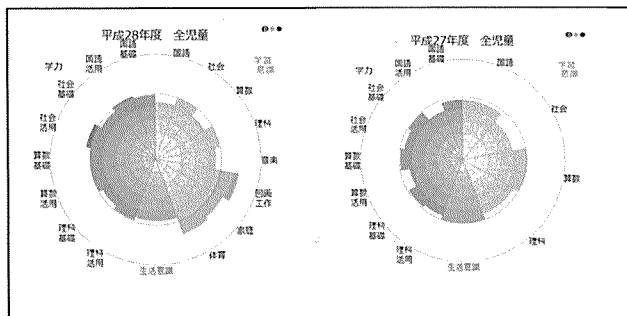
- (1) 学校・地域の特色を活かした教育課程の運営・改善に取り組み、「梅との出会い」を通して心を育む活動を行っている。
- (2) 校内重点研究、教職員の自主的な研修「梅林塾」による実技研修、及び学年研ブロック研の充実を通し、学習指導と生活指導双方の実践力を高める必要がある。
- (3) 個に応じた指導のため、特別支援委員会と連携し全ての教職員で共通理解を図り、プラムルームの実施などを通してかかわりながら、それぞれの子どもにあった指導を行っていく。
- (4) 家庭で、学習や運動等の習い事の参加率は高いが、家庭間での差も大きい。平日・休日に地域の社会体育・運動に親しむ児童が多いが、反面、家庭での学習時間の確保が課題。
- (5) 小中9年間を通した一貫性のある「基本的生活習慣」の確立と「授業でつながる」連続性のある学習指導の推進に向けて、小中間での情報交換と研究を推進していく。

2. 中期学校経営方針「確かな学力」達成目標

学力向上に関する指導の目標・方針（平成30年度末の姿）

- 児童に学ぶ楽しさを体験させ、学習意欲を高め知的技能の習得を図り、思考力・表現力を育成する。また、主体的、協働的に取り組む姿勢を育てる。

3. 横浜市学力学習状況調査等からの平成29年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に見て横浜市の平均的な学力である。基礎・基本の定着により、特に低学年で学力の底上げがみられた。また、活用も全学年で伸びている。

「スキルタイム」による自主学習の習慣化から、学習・生活意識も高い。

一方で、問題解決型学習などを取り入

れ、主体的に学習したり、日常化をしたりする必要がある。

(2) 教科学習の状況

- 国語科 「読むこと・話すこと」では、めあてに沿って段落や大事な言葉を押さえて読んだり、話したりすることが難しい。
- 社会科 学習意欲は高いが、疑問に思ったことを調べたり、友だちと対話したりする学習をもっと取り入れる必要がある。
- 算数科 プラムルーム、TT、少人数指導を中心とした個に応じた指導の積み重ねを大切に、基礎基本の確実な定着を図るとともに、課題を明確にし、対話的活動を通して学んでいく必要がある。
- 理科 理科学習全般にわたって、興味をもったことや疑問に思ったことを自分から進んで調べていくように支援していく必要がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学力については学年によるばらつきは少なくなり、学力・学習意識ともに伸びてきている。

活用する力もついてきているので、学習に主体的に取り組む中で、問題解決型を取り入れたたり、日常化を目指したりしていけるよう授業改善を行っていく。

4. 平成29年度 目標と具体的方策

平成29年度 目標

「楽しくわかる授業」の実現に向け、基礎基本の定着と言語活動を重視した授業の実現

(1) 学校組織としての共通の取り組み

- 基礎・基本の習得を図り、問題解決的学習や個に応じた指導の充実、家庭学習との連携
 - ・共同思考を大切にして学び、主体的に学ぶ態度を育む指導を工夫し、学んだことを家庭で振り返ったり、学び直す。
- 言語活動の充実
 - ・課題解決に向かって思考・判断したことを相手に分かりやすく伝えるための力として、言語活動を充実させる。
- 特別支援教育の充実
 - ・特別支援コーディネーターを中心に学校カウンセラーや諸機関と連携を図りニーズに応じた指導を充実させる。教育ボランティアを積極的に活用し個に応じきめ細かな指導を行う。
- 研修・研究会の時間の確保と内容の充実
 - ・授業の「課題」を明確にし、対話的活動を通して理解を深めたり日常生活に活かせるようにしていく。
 - る教材・教具の工夫をする。

(2) 学年・教科等としての取り組み

◎基礎・基本の確実な習得

<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話の聞き方・姿勢・鉛筆の持ち方等学習に向かう態度の定着を図る。 ○音読や文字の練習、計算練習等を繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。 	<p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書く」力を生活記録文（観察文）で伸ばしていく。 ○「考え方」絵から問題を作ったり応用問題に取り組んだりしていく。
<p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常的に文と文のつながりを意識し、書くことの機会を増やす。 ○図や式を使い考えたり、作図や測定を丁寧に行ったりすることで考える力を育てる。 	<p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常場面での豊かな語彙力増やし、各教科に於いて活用していく。 ○思考の過程を発表する機会を作り、自分の考えの根拠を説明できるように支援する。
<p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を明確にした授業を展開し、子どもたちが主体的に学ぶことができるようにする。 ○音読や漢字の聞き取り、算数の計算力を上げるための練習を繰り返し行い、基礎基本の確実な習得を目指す。 	<p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入を工夫し、視覚的に分かりやすい授業を通し、意欲を高める。 ○個に応じた指導を細かく行う。 ○見通しや振り返りを行うことで日々の授業内容を定着させる。
<p>個別支援級</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝の会で毎日行うスピーチと質疑応答のやりとり、帰りの会前に書く1日の振り返りなどを通して、コミュニケーション力や発信力、基本的な話型・文型の定着を図る。 ○学年に応じて音読や文字の練習、基本的な計算練習等を繰り返し、基礎学力の定着を図る。 	